55　屋久島灯台　　56　屋久島灯台石塀

屋久島灯台は，東シナ海を臨む島内最西端の永田岬に位置する灯台で、日本本土から台湾に至る南方航路整備のために建設された８つの灯台のひとつです。明治 30 年（1897）１月に最初の明かりが灯され、以後大きな改変もなく当時の姿を留めています。

建物はレンガ造りで積み上げた表面をモルタルで覆っており，床や階段等の一部は溶結凝灰岩が使われています。また，設計者である石橋絢彦（いしばしあやひこ）氏がイギリスに留学していたことから，イギリス積みと呼ばれるレンガの積み方や，上下一直線に並ぶ出入り口や窓の配置，灯室の形状など，随所にスコットランド風の建築様式が見られます。

本灯台は鹿児島県下に残る灯台の中では唯一，明治期からの姿を現在に留めており，その建築様式も含め歴史的な価値の高い建造物であることから，令和３年に国の登録有形文化財となりました。

さらに，灯台の敷地を囲む石塀も同様に登録されました。この石塀は屋久島の大部分を形成する鉱物である花崗岩を切り出し加工したものを３段積み下段とし，上部はレンガを３段積みモルタル塗で仕上げ笠石状に形成しています。

○　施設の概要

・位　　置　　北緯　30 度 23 分 19.35 秒　／　東経 130 度 22 分 53.95 秒
・構造・規模　　灯台　レンガ造り，119.3 ㎡　／　石塀　石造り，全長 136m
・高　　さ　　灯台　19.6m　／　石塀　約 1.4m
・等級及び灯質　　３等　単閃白光　毎 15 秒に１閃光
・光度及び距離　　120 万カンデラ　22 海里（約 41 ㎞）
・そ　の　他　　明治期灯台Ｂランク

○　灯台及び周辺